

## 第5回建設部会年次大会&amp;業績研究発表会プログラム

1. 開催日 : 2017年7月1日(土) 13:00~17:30  
 一部 13:00~13:40 第5回近畿本部建設部会年次大会  
 二部 13:50~17:30 第5回業績研究発表会
2. 会場 : 日本技術士会近畿本部 予約時間 13:00~17:30  
 会議室:会場(定員40名、プロジェクターあり)  
 控室は、確保しないが、講演者は、部屋の前の方に座席を確保。  
 特別講演者等も同じ対応。水は、ペットボトルを使用。  
 〒550-0004 大阪市西区靱本町1丁目9番15号 会議室
3. 資料代 : 1,000円 (第5回建設部会業績研究発表会論文集)  
 4. 懇親会 : 5,000円「本町界限」  
 5. 次第

## 【一部 年次大会】13:00~13:40

- 司会進行 山崎副代表  
 開会宣言 山崎副代表  
 建設部会代表 挨拶 杉本代表  
 幹事の紹介  
 年次大会議長(恒例により代表が議長となり年次大会成立宣言)  
 報告事項  
 (1)平成28年度活動報告 河野幹事長  
 (2)平成28年度決算報告及び監査報告 藪内会計幹事、三谷会計監査  
 (3)平成29年度活動計画案 河野幹事長  
 (4)平成29年度予算計画案 藪内会計幹事  
 (5)近畿本部建設部会の組織・体制 杉本代表

## ☆休憩 約10分

## 【二部 業績研究発表会】13:50~17:30



- 司会進行 山崎副代表  
 13:50~13:55 開会挨拶 建設部会 代表 杉本 哲雄  
 13:55~14:00 来賓挨拶 未定 (出欠確認)  
 14:00~14:20 ①  
 14:20~14:25 質疑応答1  
 14:25~14:45 ②  
 14:45~14:50 質疑応答2  
 14:50~15:10 ③  
 15:10~15:15 質疑応答3  
 15:05~15:15 休憩  
 15:15~15:35 ④  
 15:35~15:40 質疑応答4  
 15:40~16:00 ⑤  
 16:00~16:05 質疑応答5  
 16:05~17:05 特別講演・天野武日古 技術士(上下水道部門)  
 17:05~17:10 質疑応答  
 17:10~17:20 閉会挨拶 建設部会 副代表 甘利 哲夫  
 17:20~17:30 後片付け  
 移動

## 【懇親会】17:40~19:40 別場所で懇親会


第5回近畿本部建設部会業績研究発表会発表者のエントリー概要

(応募論文執筆者講演)


敬称略・順不同

<p>① 本人写真</p> 	氏名	中川 恭男(なかがわ やすお)
	勤務先	近畿日本鉄道株式会社
	論文題名	鉄道アンダーパス道路工事に伴う軌道自動計測システムの比較選定について
	<p>(論文要旨) 都市開発と連携し鉄道と交差するアンダーパス道路の構築が行われた。</p> <p>アンダーパス道路構築の工法には、工事桁を仮設し下部地盤を掘削後、場所打ちコンクリートで函体を構築する開削工法と、先に立抗内で函体を築造させた後、推進・けん引により線路下まで函体を移動させる非開削工法がある。</p> <p>いずれにしても、工事で最も留意しなければならないことは「鉄道運行の安全を確保する」ことである。</p> <p>従来、非開削工法では軌道作業員が人力で軌道変位を測定していたが、近年はICT化により様々な方法による自動変位計測システムが開発されてきている。</p> <p>本業務では、非開削工法による函体推進・けん引に伴い、現場条件に合った軌道自動変位計測システムの比較選定業務について述べるものである。</p>	
<p>② 本人写真</p> 	氏名	岡 千裕 (おか かずひろ)
	勤務先	レンドリース・ジャパン(株)：テレコム1部
	論文題名	異なるタイプの地震における携帯通信インフラの被害と復旧、および災害復旧活動について
	<p>(論文要旨) プレート境界型地震である東日本大震災と、内陸直下型地震である熊本地震では、携帯通信インフラの被害状況も大きく異なっていた。</p> <p>筆者は、東日本大震災の発生から3週間後、熊本地震の発生から1週間後に同インフラ被害の調査と復旧を目的として被災地で活動した。そして、そこで見てきたこれらの地震における携帯通信インフラの被害や復旧状況の相違点等について比較・考察する。</p> <p>又、急速な技術発展と利用量の増大傾向にある携帯通信サービスにおいて、災害復旧活動時の利用範囲も拡大しそのニーズも変化していると考えられる。今後の防災・減災・復旧活動（特に、東南海・</p>	

	南海地震を意識して) を考える上でのポイントについても言及したい。	
③ 本人写真 	氏名	福岡 悟(ふくおか さとる)
	勤務先	福岡技術士事務所
	論文題名	高速道路の大規模更新と修繕について－阪神高速道路の事例から－
	(論文要旨) 我が国の高速道路が供用され 50 年以上が経過した。高速道路は予想を超えた交通量と車両の大型化により各所に損傷を生じるようになった。これまでは損傷個所を発見次第, 早期に補修又は集中的に通行止め期間を設けて補修してきたが、各地の高速道路はもはやそれらの対応では不可能と考えられるようになり、いかに対処すべきか各道路会社は専門家を交えた委員会を設けて検討してきた。その検討結果に基づき、これまでの部分的ものとは異なった大規模更新・修繕に踏み切ることにした。 これらの工事は期間も長く、一般の利用者に大変な迷惑をかけるばかりか、社会経済生活にも多大な影響を及ぼし、また工事費も多額の費用を必要とする。そこで、筆者が勤務していた阪神高速道路の例を中心にどこが、なぜ損傷したか、どう補修・修繕するかについて報告することとする。	
④ 本人写真 	氏名	藪内 生死(やぶうち せいし)
	勤務先	いであ株式会社
	論文題名	第二京阪沿道での住民・企業・行政協働のまちづくり
	(論文要旨) 第二京阪道路は京都と大阪を結ぶ幹線道路で、大阪府域 17.6 km であり、その約 4 割が市街化調整区域で、道路の開通により、無秩序な乱開発の恐れがあった。 行政機関は、企業立地の優位性を踏まえ、農地と調和し計画的な開発を誘導するべく土地利用方針を示している。地域住民が主体的に関与し、企業誘致の実現性・確実性、基盤施設・建築物のあり方や居住者の住まい方、暮らし方を定め、良いまちの状態が持続するまちづくりを目指して、多くの地区で事業の実施や検討が行われている。沿道での取り組み状況を概観するとともに、土地区画整理事業の完了事例を紹介し、今後のまちづくりの一助になることを期待する。	

⑤ 本人写真 	氏名	鍵谷 司 (かぎや つかさ)
	勤務先	環境計画センター
	論文題名	M学園を事例にした不法投棄地の廃棄物問題について
	<p>(論文要旨) 国有地の売却に当り、廃棄物が埋まっていたとして大幅な値引きが行われ社会問題になっている。土地鑑定額の 9.56 億円 (8,770m<sup>2</sup>) に対しごみ撤去費 8.15 億円を値引きして約 1.3 億円で売却した。が、約 2 万トンのごみ埋立量の算定根拠が不確かであり、その存在さえ疑わしい状況である。廃棄物処理法では、掘削した廃棄物を埋め戻すことは不法投棄に該当し、懲役を含む厳しい罰則が規定されている。また、掘削廃棄物の保管基準や搬出時における管理などが規定されている。ここは不法投棄地であり、原因者が不明な場合は全て土地所有者の責任のもとで対応しなければならない。不法投棄地における廃棄物問題と罰則等について当該事例を参考にして検討したので紹介する。</p>	

(特別講演)

本人写真 	氏名	天野 武日古(あまの たけひこ)
	勤務先	天野技術士事務所
	論文題名	産業廃水処理の実施例と基本設計の方法
	<p>(論文要旨) 約半世紀にわたり産業廃水の処理に携わった体験の中から無機と有機系の廃水処理に分け、基礎から分かりやすく解説する。紹介する実施装置は鉄鋼酸洗廃水、アルミ建材表面処理常時廃水及び大和川清流ルネッサンス 21 河川浄化、自動車部品工場の離型剤廃水処理とペットフード製造廃水の生物処理の物件を如何に受注できたか、性能保証の設計ポイントは何かなどを織り込んで紹介する。産業廃水は業種の数が多く、法規制もあり、機械の保証は勿論、水質性能の保証が必須で受注競争も熾烈。技術者として知恵を結集した歩みを語る。</p>	